

(様式4)

令和6年3月22日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立富山いずみ高等学校  
校長 越後 喜紀

令和5年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

## 令和5年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では今年度、「一人ひとりの可能性を引き出しながら、主体的に学ぶとともに、自ら考え、判断し、決定して行動できる生徒を育成する」ことを学校課題とし、以下の取組を行った。

総合学科は〔学習活動〕では、重点課題として「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の推進と家庭学習習慣の確立に努めた。生徒自ら学習目標や計画を立ててそれを達成できるように、振り返りの時間を設定したり、クラウドサービスを活用したり等、主体的に学習ができるように継続的に指導した。また今年度より2年次「総合的な探究の時間」に地域との連携のもとで本格的な探究活動を実施し、自ら考え判断し決定して行動できる生徒の育成に努めた。〔進路支援〕では、1年次「産業社会と人間」で進路目標を明らかなものとし、2年次「総合的な探究の時間」の進路活動を通して自己理解を深め主体的に進路を考えるよう指導した。重点課題として、進路実現に対応できる能力を身につけるための進路支援や面接指導の充実を図った。

看護科は〔学習活動〕では、動機付け・意識付けを的確に行い、5年間で必須となる基礎学力の充実に努めた。〔看護師養成〕では、個別指導、少人数指導、病院等での実習を通して、人間尊重の精神を基本とした望ましい看護師の養成に努めた。

学校全体として、三つの方針(スクール・ポリシー)にある「身につけたい6つの力」(傾聴力・想像力・思考力・発信力・協働力・実行力)を学校行事等の際に意識させ、学期末に振り返りを行った。生徒の自己評価は学期が進むにつれて上昇した。

学校アクションプランの達成目標11項目のうち、目標を達成したのは7項目であり、4項目はBの評価であるため、総合評価をBとする。

### 7 次年度に向けての課題と方策

今年度の評価をもとに各項目について以下のように取り組んでいきたい。

〔学習活動〕・「主体的・対話的で深い学び」になるように、教育用クラウドサービスの活用や面談等を通して進路目標の早期の構築ができるよう援助を行うとともに、探究活動の充実を図る。また、授業改善につながるように互見授業の継続、およびICT機器の効果的な活用等の研修を行っていくことが必要である。

〔学校生活〕・ルールに則ったスマートフォンの使用ができるよう、継続して指導に取り組んでいく必要がある。  
・元日に大きな地震が発生した。今後も防災意識を待たせるために防災教育の推進に努めていく必要がある。

〔進路支援〕・多様な進路志望や入学者選抜方式に対応できるよう体系的な指導体制の構築と情報共有の強化し、生徒個々の強みを活かす方式の選択と指導について全校体制で行う必要がある。  
・学習支援ツール等の活用により、面接資料や志望理由書、活動調書を作成し、多面的・総合的な評価を進路実現に繋げる方策を推進する必要がある。

〔特別活動〕・生徒による主体的な学校行事への取組支援と、実施方法の模索の継続が必要である。  
・「育てたい力」の伸長を目指し、目標設定等を情報共有し、学級運営の向上を目指したい。  
・教科や探究活動と連携し、自ら意欲的に読書に取り組むような支援が必要である。

〔看護教育の充実〕・新教育課程における効果的な授業実践や評価方法の検討と充実を図る。  
・臨床判断能力育成のため、シミュレーション教育の充実とICT活用をより一層推進する。

生徒たちが様々な活動に主体的に取り組む学校を作っていくため、「富山いずみ高校三つの方針(スクールポリシー)」を学校全体で浸透させ、目指す学校像に向けた、さらなる具体的な改善を行っていきたい。

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 富山いずみ高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	1 学習活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習習慣の確立</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の推進</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科では生徒の進路目標が多様であり、選択した科目に応じた家庭学習の量や必要な学力が様々であることから、教科ごとに成績にばらつきが見られる。</li> <li>・進路や学習に対する目標が明確でない生徒は学習へ向かう姿勢が受動的になる等、学習意欲にも影響を与えている場合がある。</li> </ul>	
達成目標	① 家庭学習の振り返りアンケートにおいて <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立てて学習している</li> <li>・課題やそれ以外の学習に取り組んでいる</li> <li>・テストの見直しを行いその後の学習改善につなげている</li> </ul> の各項目のポイント (10点満点)	② ICT機器を有効活用した授業を行うことができた教員の割合
	3つの項目の平均点 5点以上/10点満点	90%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習振り返りシートを活用し、自分の生活リズムや学習方法、学習時間について生徒自ら考えるようにする。</li> <li>・担任等による面接指導を充実する。</li> <li>・小テストや課題の提示を、評価の場面や方法を工夫しながら計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用指導力の向上に向けた研修を行う。</li> <li>・教科内または異なる教科の互見授業を実施し、活用方法や工夫点等について意見交換することで、授業改善に活かす。</li> </ul>
達成度	1学期 (全学年) 6.2点 2学期 (全学年) 6.5点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の有効活用 90% (教員アンケート)</li> </ul>
具体的な取組状況	①生徒が学習目標や計画をたててそれを達成できるように、各学年で取り組みを行った。 (1年) デイリーワーク等で学習習慣の定着を図るため、定期考査、実力テストや模試後の見直しが重要であることについて指導してきた。Google classroomを利用して、教科で課題に取り組みせ、学習時間の確保や日々の学習の確認を行うことができた。 (2年) デイリーワークやデジタルサービスの課題に取り組むことで、主体的に学習ができるように継続的に指導した。また、小テストの計画や進捗を提示し、計画的な学習の取り組みが継続するよう援助した。模試やスタディサポートの振り返りの時間を設定したり、志望学科調べや志望理由書の作成を行ったりして、進路先が明確になるように指導した。 (3年) デイリーワークや朝時間を利用した小テストやコラム学習で、基礎学力の向上や視野の拡大を図った。また、高い目標をもつ生徒に対して共通テスト対策の放課後補習や個別試験対策の添削指導を行った。 ②ICT機器を用いて、デジタル教科書や副教材等を有効活用することで視覚的聴覚的学習効果を図る機会が増えた。また、授業改善を目指して実施した互見授業には、1学期は38名、2学期には50名の教員が参加した。	
評 価	① A	2学期の家庭学習の振り返りアンケートでは、1学期より3項目ともに達成度の数値が上がった。しかし、「計画を立てて学習することができた」と回答した生徒の数値が他の項目に比べ、やや低い。計画的な予習・復習等の学習習慣の定着が課題である。
	② B	教師側だけでなく生徒がICT機器をより有効に活用する機会が増えてはいるが、コロナ前の日常になったことで以前の授業形態に戻した授業もある。ICT機器活用の研修を実施し、授業全てでなく場面に応じて有効活用していくことが今後の課題である。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びは生涯続く。生徒は社会に出る直前の3年間なので、学びの楽しさ、知ることの喜び、計画、実践することの有意義さを楽しく実感できるように指導をお願いしたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標の早期の構築</li> <li>・ICT機器の有効活用に向けた研修の実施</li> </ul>	

(評価基準

A: 達成した

B: ほぼ達成した

C: 現状維持

D: 現状より悪くなった)

重点項目	2 学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活におけるルールやマナーについて考え、自律できる力の育成</li> <li>・交通安全や防犯に関する意識の向上</li> <li>・命を守ろうとする主体的な危機管理能力の育成</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの校内での使用ルールやマナーを守らない生徒や長時間使用し、学習や睡眠など生活に支障を来す生徒が一部存在する。また、少人数ではあるが安易に SNS に個人情報掲載し、ネットパトロールから指摘を受けたり、外部より苦情がきたりトラブルに巻き込まれる生徒もいる。</li> <li>・今年度の自転車乗車中における交通事故は10件発生している。(1月現在)</li> <li>・「スマホを使用しながら」や「イヤホンを装着しながら」登下校する生徒も一部に見られる。</li> <li>・近年、全国各地で生活に甚大な被害をもたらす地震や水害などの自然災害が頻発している。富山県は比較的地震等の災害が少ないため、正常性バイアスに囚われているケースも多く、生徒の危機管理意識に個人差が見られる。</li> </ul>	
達成目標	①交通安全とスマートフォン使用に関するアンケート回答で「ルールが意識できている」生徒の割合	②災害時の安全確保や感染症予防にも留意し、自分や周囲の人々の命を守るために家族や友人と共有できる知見やライフハックを身につけ、実践できるようになった生徒の割合。
	80%以上 (1月実施「マナー・規範意識」アンケート)	75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規律委員会主体による活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。</li> <li>・生徒会と規律委員会を中心に作成した「富山いずみ高校ネットルール」の全校生徒への周知を行い、正しいネットの使用方法について考えさせる。</li> <li>・規律委員会(サイクルリーダー)による自転車の鍵かけを呼びかけ、防犯意識涵養を図る。また、ヘルメットの着用についても呼びかける。</li> <li>・外部機関と連携し、安全教育に関する講演会を企画する。</li> <li>・生徒心得の見直しを通して、生徒自身が学校生活の在り方について考え、自分たちの課題について主体的に取り組む態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する知識やスキルを得られるよう、専門家の講義や体験的活動を企画する。</li> <li>・統一HR「防災講座」で被災時に実践できる具体的な行動を考えさせる。</li> <li>・保健だよりや掲示などによる啓蒙活動を継続的にを行い、理解を促す。</li> </ul>
達成度	88.6%	79.3%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を招き、安全教育講演会を実施した。</li> <li>・規律委員会を中心として、以下の活動を行った。</li> <li>1「朝の活動」 規律委員と教職員で1学期に2回、2学期に1回生徒玄関前や通学路における横断支援、あいさつ運動を行った。また、昼休み時間を利用し、自転車のカギかけと駐輪マナー及びヘルメットの着用を呼びかけた。</li> <li>2「マナー・規範意識」をテーマにしたアンケートの実施</li> <li>3「秋のさわやか運動」 PTA・教職員も参加し、3日間にわたって運動を展開した。規律委員会が学校スローガンに基づき、ポスターを制作するなどの啓発活動を行った。昼食時には放送部に依頼して、「さわやか運動」の重点項目を呼びかけた。</li> <li>4「生徒心得の見直し」 生徒会が中心となり、髪型について新しいルールを自分たちで作成し、理解が得られるよう働きかけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒保健委員を対象に、富山県防災士会と日本赤十字社から防災の専門家を講師として招聘し防災に関する知識や備えについて具体的な事例を示した講義やワークショップを実施した。</li> <li>一般的に富山県は「災害が少ない県だ」と言われるが、そろそろ大きな規模で地震が起こる可能性があるということを知り、危機感を持って備えておくことの大切さを学んだ。7月開催の「防災講座」で使用されたパワーポイントを生徒保健委員がクラスごとに「防災講座」を展開し、クラス全員の防災意識を効果的に高めることができた。振り返りのアンケート項目「災害時の命を守る具体的な行動を考え、その行動を継続して実践しようと思うか」で、「実践したい(実践する)」と答えた生徒は全体の79.3%(1学年77%、2学年79%、3学年82%)であった。学年が進むにつれて実践意欲が高くなるという傾向が見られた。</li> </ul>
評 価	① A	交通安全とスマートフォン使用に関するアンケートの項目で目標を達成できた。
	② A	専門家による防災教育も取り入れることで、防災に関する知見を効果的に習得し、災害時の安全確保や自分や周囲の人の命を守る行動を考え、継続して実践できるようになった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を受け入れつつも、他人を思いやる心と自らを律する厳しさを育てていただきたい。厳しくも楽しく、成長する3年間であるように指導していただきたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールに則ったスマートフォンの使用ができるよう、継続して指導に取り組んでいく必要がある。また、ヘルメットの着用も継続して呼びかけていく。</li> <li>・元日に「震度5強(富山市)」という大きな地震が起こった。防災講座の「富山県にそろそろ大きな地震が起こるかもしれない」という言葉の通りになってしまった。今年度の目標はひとまず達成したが、今後も防災意識をしっかりと持たせておくよう努めるべきである。</li> </ul>	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	③進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接指導の充実</li> <li>・3年生への進路支援の充実</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会とのつながりについての意識が希薄であり、進路や学習に対する目標が明確でない生徒、あるいは狭い視野でしか物事を捉えることができていない生徒が散見される。</li> <li>・家庭学習が習慣化していない生徒、また、学習態度はまじめだが基礎学力が定着していないため学習に困難を感じている生徒が見られる。</li> <li>・3年総合学科では、1、2年生の指導をふまえて、個々の進路実現に向けた支援として、小論文や面接指導など志望先に応じた指導を充実させることが求められている。</li> <li>・大学入試制度改革への対応として、1年「産業社会と人間」、2年・3年「総合的な探究の時間」などを利用して、生徒が自分の考えをまとめて「話す・書く」などの、表現力を深化するための取り組みが始められている。</li> </ul>	
達成目標	① 面接指導の充実 ・面接を通して「自己理解が深まり主体的に進路を考えるために役立った」と回答する生徒	② 3年生への進路支援満足度 ・3年間の進路支援のための取り組みに対して「満足した」と回答する生徒
	80%以上	平均55%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査、学習時間調査、進路学習の振り返り、学習成績記録等を有機的に結びつけ、面接指導に活かす。</li> <li>・面接週間期間は生徒面談を優先するため、校時・行事について配慮する。</li> <li>・教科担当者との面談も必要に応じ設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般選抜を含め、小論文指導、面接指導など、志望先に応じた指導体制の充実を図る。</li> <li>・過去問や受験報告書等の蓄積データをデータベース化し活用できるようにする。</li> <li>・生徒の進路志望と外部模試の結果分析を行い、授業改善や進路指導に活かす。</li> </ul>
達成度	86.2% (1学年81.2%、2学年91.3%)	98.1% (「満足」49.5%、「ある程度満足」48.6%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期、2学期については、学期はじめに2週間程度の面接期間を設け、そのうちの1週間は短縮授業を実施し、面接時間の確保に全校的に取り組んだ。年間を通して、科目選択や進路希望に関わることなど、各学年とも3回以上の個別面談を実施している。</li> <li>・各学期の初めに学習時間や生活実態、学習に向かう姿勢等の調査をGoogle classroomを利用して実施した。学習への取り組み状況を把握することで、面談資料としても活用できた。</li> <li>・校内実力テストの成績表に教科ごとの得点分布を載せるように改善し自己の取り組みへの振り返りの一助となるように工夫した。</li> <li>・進路指導室PC内の過去問データベースの活用を進めた。学校推薦型選抜から一般選抜まで、多くの生徒が利用した。資料検索を効率的に行えるように大学ごとの資料を整理した。</li> <li>・学校推薦型選抜受験者に対する個別指導を全校体制で行った。志望理由書の指導を面接指導担当者に依頼し担任の負担軽減に努めた。</li> <li>・各学年でスタディサポートや模試の分析・検討を行い、学習指導・進路指導の改善に活用した。</li> </ul>	
評 価	① A	面接が「おおいに役立った」と答えた生徒の割合が、昨年度(1学年21.1%、2学年12.6%、全体16.7%)に比べ大幅に増加した。(1学年16.6%、2学年26.6%、全体21.6%)今後も生徒の進路希望に応じたきめ細かな指導を続けていきたい。
	② B	「満足」は目標に届かなかったが、「ある程度満足」を含めると98.1%となり、概ね目標は達成できたと考えられる。特に3年次での取り組み(受験に向けての各種ガイダンス、小論文・面接指導等)については、多くの生徒が「参考になった」「役に立った」と評価した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接について様々な工夫と取り組みの成果が「大いに役立った」という生徒の声に反映されており、引き続き丁寧なご指導をお願いしたい。学校生活のなかにも、遊び、ゆとりの部分はあっても良いと思う。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との個別面談の内容を記録し、学年・授業担当者での情報の共有や年次進行への対応に役立てる。</li> <li>・多様な進路希望や入試方式に対応できるような指導体制を整え、生徒個々の強みを活かす指導を全校体制で行う。</li> </ul>	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	4 特別活動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部を中心とし、生徒全員による主体的な学校行事の取り組みを支援</li> <li>・各部活動やホームルーム、委員会活動に協働的に取り組む態度の育成</li> <li>・読書意欲の向上と幅広い読書の推進</li> </ul>		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校行事に対する充実感が高い一方、参加意識や関わり方が薄い生徒も見られる。生徒一人一人が主役であることを意識させるとともに、積極的に企画運営に携わることで充実感を一層向上させたい。</li> <li>・部活動やホームルーム活動、委員会活動では、決められた役割を確実にやり遂げる生徒は多いが、グループ全体の目標や役割に対して協力して取り組もうという態度に物足りなさを感じる。目標達成や諸問題の解決のために仲間や教師と協働して取り組もうとする態度を育成したい。</li> <li>・朝読書により生徒たちは読書を身近なものとしてとらえている。しかし、残念ながら読書習慣にはあまりつながっておらず、家庭での読書量は朝読書の半分程度となっている。</li> </ul>		
達成目標	①各学校行事への取り組みに対する充実感、達成感	②ホームルーム活動をより充実・改善した担任の割合	③2学期末において、朝読書、朝読書以外も含めて、充実した読書ができたとする生徒の割合
	90%以上	80%	50%以上(1・2年生)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートを実施し、生徒の意見や要望を取り入れることで、参加意識を高める。</li> <li>・生徒議会や生徒総会等を活用して各行事の内容を生徒に周知するとともに、意見箱を設置し広く意見を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの「育てたい力」を生徒ともに考え、年間を通して方策を探る。</li> <li>・HR活動の充実を図るため研修や学年単位での活動で、クラス発表の場を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた雰囲気の中で一日がスタートできるよう、朝読書の時間は集中して読書に取り組む。</li> <li>・学期末に生徒各自が目的意識をもって充実した読書ができたか振り返る機会を設定する。</li> <li>・統一HR「読書の時間」で友人の読み方を知り、読書の面白さを味わう場を設定する。</li> <li>・図書委員会の活動を充実させ、幅広い読書を推進する環境づくりに努める。</li> </ul>
達成度	96.5%	62.5%	72%
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校行事では、生徒会執行部を中心として生徒の意見を反映させながら企画・運営に取り組ませた。特に体育大会では、生徒会を中心とした団員反省会を団活動後毎日行い、生徒同士で問題の解決方法を考え、円滑な運営方法を考え出していた。</li> <li>② 学期ごとに「育てたい力」の目標を掲げてもらった。担任にはホームルーム活動でその目標を周知し、HR計画作成に当たって「育てたい力」の実現に向けた内容を取り入れ、学級運営の向上を目指した。全体での球技大会は廃止したため、各学年で生徒主体の行事を企画、運営させ取り組んだ。</li> <li>③ 「朝読書」で落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートさせ、「朝読書」の時間は集中して読書に取り組むことを基本的な取り組みとして実施した。統一HR「読書の時間」では、クラスで各自が読んだ本について話し合う機会を作った。</li> </ol>		
評 価	① A	コロナの制限がなくなり参加意欲が高かった。また、競技に参加するのはもちろんだが、計画、運営に積極的に参加した生徒が多かった。来年度「リーダーとして参加したいか」と2年生にアンケートしたところ半数が挑戦してみたいと回答し、主体的に取り組む意欲を感じた。	
	② B	各クラスで「育てたい力」を考え各学期スタートしたが、時間が少なく HR 運営委員など個人の能力に左右される。コミュニケーションを増やした担任が多くみられた。	
	③ B	「充実した読書ができた」とする生徒は44%であったが、「ほぼできた」を加えると合計が72%であった。「できた」と回答した生徒だけでは50%に若干届いていなかったが、当初の目標はほぼ達成できたと考えた。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書に親しむ時間は心の安らぎに繋がる。朝読書を続けるだけでも十分な効果があり、継続は力なりである。習慣になれば尚良い。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒が主体的に学校行事に取り組めるような支援と実施方法の模索の時間確保が必要である。</li> <li>② 「育てたい力」を IGP に限定して目標設定をおこない、各クラスを運営していく。</li> <li>③ 朝読書以外の読書時間が少ないことが読書履歴調査から分かっており、教科・探究活動との連携を意識した指導によりさらに読書に親しむようになってもらうことを考えたい。</li> </ol>		

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	その他（看護科教育の充実）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師国家試験合格及び進路実現を目指した学習及び進路指導の充実</li> <li>・専門教科への興味・関心の向上及び職業観・社会人基礎力の育成</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年によってはクラス内で学力の二極化が見られ、生徒に合わせた学習指導が難しい。</li> <li>・看護師養成校として看護師国家試験合格は必須であり、合格率100%を目指している。</li> <li>・卒業後就職以外に保健師・助産師・養護教諭養成機関への進学や大学編入希望者がいる。</li> <li>・看護職者として社会人基礎力及び倫理観の育成が求められている。</li> </ul>	
達成目標	① 進路実現 看護師国家試験合格率・進路達成度	② 看護科意識調査での満足度 専攻科修了生への「看護科で学んで良かったか」「学習面・進路面」の問いに「満足した」と回答した生徒
	100%	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験対策として、研修会に参加し、112回国試問題の分析による指導方法の工夫を図る。</li> <li>・外部模試や実力テストの事後指導と共に早期に必修問題に取り組み強化していく。</li> <li>・「解剖生理」などの基礎的知識定着に向け、授業改善、進度の工夫、評価方法の検討を継続していく。</li> <li>・高校1年次から継続的な学習習慣を確立し、学習時間の増加と生徒の習熟度に合わせた指導法を工夫すると共に、成績下位者への個別指導を行う。</li> <li>・就職試験対策講座を活用し、早期に進路決定させ、計画的に面接・小論文指導及び進路懇談会を実施する。また専攻科1年次の保護者会や高校での保護者懇談会の実施により理解を得る。</li> <li>・大学編入者、保健師・助産師への進学希望者の実態把握、校内での指導体制の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時より看護職者としての自覚及び社会人基礎力、倫理観の育成や看護教科に対する興味・関心を高める教科指導法や看護科行事を工夫する。</li> <li>・意識及び進路調査を分析し、生徒が抱える問題や悩みを把握し面接等の充実を図る。</li> <li>・シミュレーション教育を取り入れた演習の充実を図り、演習で身に付けた技術を臨地実習で活用できるように、生徒の学びや気づきを引き出す関わりをしていく。</li> <li>・合同HR及び自治会交流会などでのピアサポート活用による異学年間交流を充実させる。</li> <li>・臨地実習での振り返りを確実にを行い、達成感とともに自己の課題を明確にし、課題解決能力に繋げる。</li> <li>・専攻科2年次の就職対策への取り組みについて、保護者との共通理解を図る。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師国家試験に全員合格：100%</li> <li>・進路100%：就職（34名）進学（3名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護科で学んで良かった、概ね良かった97.3%</li> <li>・「学習指導」の満足、ほぼ満足91.7%</li> <li>・「進路指導」の満足、ほぼ満足86.1%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験対策として、研修会に参加し出題傾向の分析に基づいた授業を行い、生徒の学習指導に活かした。また専2は、臨地実習終了後より朝テストを実施し、成績下位者には個別指導を実施した。</li> <li>・高校では、例年の外部模試を見直し、105学研チャレンジ（解生）に切り替え、テスト直し等の振り返りで知識定着を図った。</li> <li>・専1の12月に看護協会主催の「就職がダンス」の案内を行い、早期の進路決定に繋げた。また、マイビ就職対策講座を12月に2回実施し、より具体的な指導を行った。</li> <li>・専攻科では6月に進路懇談会を8月に進学懇談会を実施した。</li> <li>・専2の進路指導に関しては、例年通り生徒の担当教諭を決め、きめ細やかな個別指導を実施した。また、国語科と連携し小論文の指導をしてもらった。</li> <li>・高校では保護者会や保護者説明会を通して、看護科や進路に関する説明を行うなど、情報提供を行い、生徒と保護者が進路実現に向けて取り組めるようにした。また専1の成績不良者に対して、考査毎に4者面談を実施し、学習指導を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護教育振興会や専攻科講演会で患者の生の声や思いを聴くことで、看護へのモチベーションの向上と看護観育成に繋がった。</li> <li>・看護科行事、合同HR、合同実習及び自治会交流会などのピアサポート活用による異学年間交流がコロナ禍以前のように行ったことで、生徒が目標達成に向けて、学習意欲維持向上や自己の到達目標を明確にすることができ、学びへのモチベーション向上の相乗効果があった。また、専攻科では、他校との学習交流会や学生交流会、富山マラソン・災害ボランティア活動に参加することで、学習意欲の向上が図れた。</li> <li>・教員間の情報共有を密にし、問題を抱える生徒において、面談を適宜行い、保護者とも連携を取り早期対応を図った。</li> <li>・シミュレーション教材やタブレット学習を積極的に実施し、より現実的な実習に近づけることで具体的なイメージを持てるよう工夫した。</li> <li>・臨地実習の振り返りをグループ間で行うことで学びの共有や成長を実感し看護のモチベーションが向上した。</li> </ul>
評 価	① A	進路は就職全員内定、進学3名決定、看護師国家試験に全員合格100%で目標は達成した。
	② A	アンケート結果は目標を達成した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会においてもコミュニケーションは大切である。コミュニケーション能力を高めて、是非発信力に繋げていって欲しい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムにおける授業の工夫や効果的な授業方法の検討ならびに評価方法の検討の継続。</li> <li>・臨床判断能力育成のためのシミュレーション教育の充実とICT活用の効果的学習方法の検討の継続。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)